

日本社会と向き合って 見えてくる日本人

中国人として日本の教育に触れ、あえて苦言を呈すれば

(有)北海道チャイナワーク 代表取締役

張 相律

text : ZHANG XIANGLU

日本で長く生活をしていると、日本の不思議なところがだんだん見えてくる。それは、私だけでなく、多くの外国人も同じように感じている。なぜ、日本はこんな不思議な国になってしまったのだろうか。皆さんも、自分の行動を改めて見つめ直しては、いかがですか。

1 乱れている日本語

日本語は元々、中国から伝わって来た言葉である。平仮名は中国語の草書から、片仮名は中国語の漢字の一部分から来たと思われる。今では、漢字を使わずに平仮名だけで何かを

表現しようとするのは、とても難しい。もし、我々が見ている新聞がすべて平仮名で書かれていたら、皆さんはどう思うだろう。きっと、「これは何だ?」「読みにくい」と、すぐ新聞を投げるだろう。しかし、漢字の文化を取り入れて、素晴らしい文化を創った日本語が最近、乱れているのは、残念だ。その原因の一つが片仮名を使う外来語にある。

私は日本に来る前、日本語を二年間ほど勉強していた。日本語に魅了され、毎日一生懸命勉強をした。そのとき、日本から来た六〇代の日本語の先生がいたが、その先生の日本語はとても綺麗だったと、覚えていた。七年前、その綺麗な日本語を少し身につけた私は、その言葉を使い

る日本にやって来た。が、何よりもショックだったのは、私の日本語が通じなかったことだ。特に、若い人と話を通じなかった。日本に来てまだ間もない頃、私は生活のために焼肉屋でアルバイトをしていた。ある日、お客さんから、「小ライス頂戴」と言われ、さっぱり意味が分からなくて、後で調べて意味は分かったが、なぜライスと言うのか、理解できなかった。「カレーライス」なら元々日本になかったものなので分かるが、普通の白いお米のご飯をわざわざ「ライス」と言うことに、納得がいかなかった。そこまで、外来語が好きなら、「小」も、「ミニ」にして、「ミニライスフリーズ」と言ってくれた方が、わかりやすい。とにかく日本人は、外来語が好き

だ。マイホーム(自分の家)、スポーツ(体育)、ウィンドウ(窓)、アート(美術)、コンパクト(小型)、カメラマン(撮影家)など。私が綺麗な日本語、本来の純日本語で話すとかえって笑われてしまうほどだ。

外来語の発音は英語の発音と似ているが、欧米人が聞いても通じない。私の周りに欧米からの留学生が大勢いるが、彼らも片仮名には困っている。日本では知識の高い人ほど、また芸術に従事している人ほど外来語を使いたがる。あたかも、自分はいかに外国の先進文化を取り入れているのだとアピールしているようだ。しかし、私にはどうも自慢しているようにしか聞こえない。

海外から来ている人は、日本の外

来語で苦勞している。最近の会社の名前などはもっとひどい。名前を聞いても何をしている会社か全然分らない。なぜ、こんな名前にしたのかと尋ねると、「これは英語の単語の日本語読みだと言つ。それからその単語の意味を教えてくれる。ただの単語なら、日本語にもあるのでは？」と思つが、どうもそれではお洒落ではないらしい。

日本語には日本語の魅力がある。外来語のすべてが悪いのではない。高度な専門用語など、日本語ではなかなか言い表せないものは外来語を使う方がいいと思つ。ただ、外来語を使用する際には、既存の日本語を使って表現する方法はないかどうか深く考えてほしい。また、日本語にある単語なら、それを活用して欲しい。日本語の魅力なくして日本の文化は滅びる。知識の高い人こそ責任をもつて、きちんとした綺麗な日本語を使うべきではないだろうか。

2 日本のテレビ番組

日本に来て日本語が分かるようになってから、徐々に日本のテレビ番組に興味を持つようになった。だが、

日本のテレビ番組は、はつきり言つて面白くない。確かに映像技術は高いが、番組の内容が偏つており、また、品がない。テレビの宣伝力と社会影響力は殆ど無視され、視聴率ばかり追求しているように見受けられる。その結果、とても内容の偏つた、社会に悪影響を与えるテレビ放送になつていく。

(1) 品のないお笑い番組

日本には色々なお笑い番組がある。お笑い芸能人も数え切れないほどいる。しかし、我々外国人がみて「素晴らしい」と思つ「番組」と「芸能人」は本当に少ない。それは、変な人が裸に近い状態で出てきて人を笑わせたリ、若い男女を引っ張り出してHな質問をしたりして人を笑わせる番組ばかりだからである。私だけではなく、多くの外国人も不快に思つている。このように品のないお笑い番組は、社会に悪影響を与える。社会とは、大勢の人が法律と道徳の枠の中で協力して行くものである。中には、道徳に反する行動をしたり、法律を違反する人もいるが、それを監視し、批判し、世論を正しいところに持つていくのがテレビであり、マスコミ

である。しかし、日本のお笑い番組は道徳に反する内容を平気で放送し、人に刺激を与えようとする。このような番組を見て育つ子供は、おそらく同じことを平気でするだろう。以前、私はとんでもない宴会を見たことがある。ある居酒屋で、十五人ほどの若者と中年の男女の団体が盛り上がった。突然、リズムに合わせた拍手が響いたので、目を向けると、そこには信じられない光景があった。一人の男性が拍手のリズムに乗つて、服を一枚一枚脱ぎ始め、最後にはパンツまで下げてぐるぐる回つていたのだ。今考えて見ると、テレビの影響でこのようなことをしたのではないか、と思つてならない。

中国人は、同じ中国人同士で集まると下品な話は互いに話しながら面白い。しかし、日本人は男女が一緒に集まると、よく下品な話題で盛り上がる、特に男性。国によつて下品の定義が違うかもしれないが、我々中国人にはとても下品に聞こえる。これも、また品のないテレビの影響かもしれない。

(2) 理解に苦しむ「特集番組」

日本のテレビ番組の中には様々な特集番組がある。人を励ましてくれ

る感動的番組もあれば、とてもおかしな特集番組もある。それは、社会の道徳倫理に反する悪い現象を大げさに放送する「特集番組」である。「若者の性行為」「援助交際」「少年犯罪」「いじめ問題」「セクハラ」に関する番組など。私は、これらの言葉をテレビで覚えた。そして、このような番組を見るたびに、テレビで放送されているような現象が日本で氾濫していると思つていた。

しかし、回りの人に聞いてみるとそうでもない。錯覚だったのだ。しかし、これが怖い！ごく一部分の人がしていることが、あなたも日本人の人が同じことをしているように感じてしまふ。みんながやっているから、私も。ということにもなりかねない。悪いことをテレビで取り上げるなら、そんなことしたら法律で罰せられるところまで放送して欲しい。悪いことをやっている人達がモザイクに隠れて堂々とテレビに出て、偉そうに話していること自体が間違つていく。罪を犯して、警察に捕まり、苦勞しているところも放送しなければならぬ。

日本人は他人の事にはあまり口を出したがない。だからこそ、テレ

び及び新聞媒体などが社会道徳をもっと注視し、社会を監視し、良い方向に誘導していく役割りを果たさなければならぬ。

(3) 日本選手しか映らないスポーツ番組

日本に来てびっくりしたのは野球の番組が多いこと。しかも、「巨人」「阪神」戦ばかり。つまり、偏った放送なのである。野球だけではなく、すべてのスポーツ番組が同じで、野球だったら人気チーム戦ばかり、世界大会だったら日本人選手が出場している種目ばかり。

我々外国人は、スポーツの世界大会がある度に悩まされる。なぜなら、本国のチームの試合や興味ある種目の決勝戦さえ見られないからだ。日本のテレビは日本人に受けるスポーツ種目のみ放送するような気がする。日本人選手が参加していて、人気のあるスポーツであれば、何時間でも放送する。一番の例がマラソン、柔道、水泳、など。中国ではスポーツチャンネルだけでも十数チャンネルあり、オリンピック大会、ワールドカップ、世界選手権などの大会は殆どの試合が放送される。世界的な

スポーツ大会が開かれると、多くの中国留学生は中国からスポーツ新聞などを送ってもらい、大会の詳細を把握する。国のスポーツレベルを高めるには、他の国のスポーツを知らなければならぬ。本国のチーム或は選手だけを応援することもいいことだが、それだけになると見る目がなくなり、もつと厳しい目でスポーツを楽しむことができなくなってしまう。

3 日本の教育

日本の教育は素晴らしい、というイメージを持っていたので、その教育を受けるために私は、日本にやってきました。しかし、今では、日本の教育に対して失望している。このまま行くと日本は他の国に追い越されるに違いない。

(1) 甘い家庭教育

一言で言うと、日本の家庭教育は、甘い。親が忙しくてなかなか教育できないと言う人もいるが、それは理由にならない。子供に色々と説明しているから我が子は大丈夫、という人もいるが、それも甘い。こどもは

あくまでも子供である。子供が社会のことを自分で理解できたら、子供ではない。子供には親の厳しい教育が必要であり、親の話、先生の話は必ず聞かなければならない、という教育が大事だ。親の知能が子供より低いと思う親は別だけれども、そんな親はおそらくいないだろう。子供が社会の基本的な常識を身につけるには一定の時間を必要とする。中学生くらいまでは、とにかく徹底的に社会の常識、マナーを教えるべきである。

今の日本の親は子供に厳しくできずにいる。人が他人に怒ったり、厳しくしたりするのはパワーがいることだ。他人でそうなのだから、まして、自分の可愛い子供にはなかなか厳しくできないと思う。厳しくすることは優しくすることより難しいことだ。だから、日本の親は楽な方法を選んで、優しいふりをする。なんでも理解してあげるふりをする。これが大きな間違いである。厳しくすることが、本当の優しさであると私は、思う。こどもは、大きくなって社会の荒波の中で一生暮らしていかなければならない。そのための能力を子供の時から少しずつ叩き込むのだ。私が子供の頃、父親はとても厳し

かった。学校の先生も厳しかった。家にお客さんが来たら、子供と母親は厨房で食事をし、学校で人をいじめたり喧嘩など悪いことをしたら、物凄く叩かれたこともあった。その時は自分が悪いと思ってなかったのに、悔しくて、夜、家を出て、親を大騒がせたこともあった。しかし、厳しい親がいたからこそ、そんなことしただめとが、あれはいけなさと理解できたのかもしれない。

子供の理解力には限界がある。子供をわがままに放置して置いたら、後で大変なことになってしまう。最近、少年犯罪が頻繁に起きているが、このすべてが親の責任にあるのではないか。

(2) 勉強しない日本の学校

「日本の学校は楽しい」。中国の学校から日本の学校へ転校してきた、多くの中国人の子供はこう言っている。確かに、そのとおりだ。授業は少ない。宿題も少ない。好きなことをさせてくれる。先生は優しい。成績も公表しない。これで、子供が喜ばないはずがない。しかし、中国人の親は皆心配している。心配のあまり、子供のために中国に戻る人が

いるほどだ。子供には遊ぶことも大事だが、勉強することも大事だ。子供には、今勉強していることがどこで役立つか理解できていないが、大人にはわかる。頭が空っぽでは、大人になって社会で生活することは大変だ。だからといって、大人になってから勉強するのでは間に合わない。とかく学生には勉強しなければならぬという姿勢を叩き込むべきだ。

だから、日本の子供は勉強しない。それなのに、教育委員会は子供の授業を減らすとか、子供の負担を減らすなどと言っている。信じられないことだ。こどもの時に、教えなければならぬことは山ほどある。国語、数学、地理、生物、音楽などなど。子供には小さい時から、様々な面の感性を教えるべきで、遊びの感性は教えずなくても、こどもは生来持っている。

また、日本では、大学生も勉強しない。私は北海道大学で三年間修士課程にいたが、北大の学部生もあまり勉強しない。中国の大学生は日本の大学生より五倍は勉強していると思う。いま、中国の大学生の方が日本の大学生より知識量が多いだろう。だからと言って、すべての科目で100点を取れるほど勉強しなさいとい

う意味ではない。自分の好きな分野を見つけて、せめてそれだけは、人より詳しくなれるよう頑張るべきだ。日本は先生も生徒も楽なことばかり考えている。人は楽しんで成長しない。このままでは、日本の学校は世界の中でもレベルの低い学校になってしまう。

張相律（チョー・ソウリツ）氏：(有)北海道チャイナワーク代表取締役

1971年中国ハルビン市生まれ、94年ハルビン工程大学卒業、99年北海道大学大学院工学研究科修士課程（建築）修了。94年ハルビン三井不動産有限公司で営業、通訳担当、97年西松建設札幌支店で建築の現場マネジメント、98年北海道日中友好協会中国語学院講師。95年来札以来現在まで大連市長や長野オリンピック中国代表団団長等の来札時の日本側通訳を務める。北大時代は中国留学生学友会の全日本理事や北海道地区会長を務める。

99年4月、幅広い人脈を生かして「日中交流の会・中国文化サロン」の設立に会長として参画、日中交流の場づくりや中国旅行のアドバイス、中国語講座、各種国際情報交換等を展開。2000年4月（有）北海道チャイナワークを設立し、通訳、翻訳、語学講座、中国ビジネスの仲介、アジア観光客の北海道受け入れコンサルティング等幅広い国際ビジネスを展開中。



去年、中国人留学生に日本温泉文化を体験させるために訪れた定山溪で